

お化粧していく本当に女っぽい・・・・・

萩原良昭

兄貴はあれでも僕等弟の面倒見は良い。

僕が小学校六年の秋だったなあ。僕も、兄貴の行く私立中学を受験することに決めたら、それなら、夕食後は僕にテレビ見るなと言った。

「なんでや」とわめいたが、お母ちゃんも、お父ちゃんも、兄貴の言うことに賛成して、僕は夕食後、テレビを見られなんだ。

あれで、仕方なく、裏の部屋で、みかん箱を出して、初めて、勉強らしい勉強を、僕は家で始めた。少い少年よ大志を抱け」と言う言葉をしきりに兄貴は僕に言っていたが、僕には欲があまりなく、いつも、ぼーとしていることが多かった。

小学校の低学年の時は、苦悶症で、鼻がいつも出ていて、勉強はいつもびりけつで、通知簿は、一番と、アヒルさんばかりだった。

僕は、「一番だと喜んだら、兄貴が腹をかかえて笑いだした。それから、勉強せえ、勉強せえと良く言った。僕も勉強すると、偉いと認めざるを得ない。兄貴は形で示した。

お化粧していく本当に女っぽい